

第223回 上級 商業簿記 ①

問題 1

[振当処理]

	借方科目	金 額	貸方科目	金 額	
(1)	【 D 】	102,000	【 B 】	102,000	②
	【 】		【 】		
(2)	【 E 】	2,000	【 D 】	3,000	③
	【 J 】	1,000	【 】		
(3)	【 E 】	500	【 J 】	500	②
	【 】		【 】		
(4)	当座預金	99,000	【 D 】	99,000	③
	【 E 】	500	【 J 】	500	

[通常のデリバティブ取引としての処理]

	借方科目	金 額	貸方科目	金 額	
(1)	【 D 】	102,000	【 B 】	102,000	②
	【 】		【 】		
(2)	【 F 】	99,000	【 G 】	99,000	③
	【 】		【 】		
(3)	【 E 】	6,000	【 D 】	6,000	③
	【 G 】	2,000	【 E 】	2,000	
(4)	当座預金	98,000	【 D 】	96,000	②
	【 】		【 E 】	2,000	
	当座預金	99,000	【 F 】	99,000	②
	【 】		【 】		
	【 G 】	97,000	当座預金	98,000	②
	【 E 】	1,000	【 】		

○印は予想配点

第223回 上級 商業簿記 ②

問題2

	借方科目	金 額	貸方科目	金 額	
(1)	当座預金	1,050,000	【 B 】	950,000	③
	【 】		【 C 】	100,000	
(2)	【 E 】	5,000	当座預金	5,000	③
	【 E 】	10,000	【 B 】	10,000	
(3)	【 D 】	25,000	当座預金	25,000	③
	【 】		【 】		
(4)	当座預金	300,000	【 M 】	175,000	③
	【 C 】	50,000	【 N 】	175,000	
(5)	当座預金	27,000	【 D 】	18,750	③
	【 】		【 J 】	8,250	
(6)	【 C 】	10,000	【 D 】	6,250	②
	【 】		【 I 】	3,750	
(7)	【 E 】	5,000	当座預金	5,000	②
	【 】		【 】		
	【 E 】	10,000	当座預金	1,000,000	③
	【 B 】	990,000	【 】		
(8)	【 C 】	40,000	【 L 】	40,000	③
	【 】		【 】		

○印は予想配点

第223回 上級 商業簿記 ③

問題3

損 益

(単位：円)

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕 入	③ 1,002,440	売 上	③ 2,275,600
給 料 ・ 賞 与	162,500	受 取 配 当 金	2,800
退 職 給 付 費 用	③ 545	受 取 地 代	③ 20,000
広 告 宣 伝 費	13,300		
貸倒引当金繰入	③ 6,500		
建 物 減 価 償 却 費	③ 10,000		
備 品 減 価 償 却 費	6,250		
租 税 公 課	9,000		
支 払 利 息	4,800		
法 人 税 等	383,065		
繰越利益剰余金	③ 700,000		
	2,298,400		2,298,400

閉鎖残高

(単位：円)

借方科目	金額	貸方科目	金額
現 金	326,710	電 子 記 録 債 務	187,595
当 座 預 金	541,400	未 払 利 息	③ 2,000
電 子 記 録 債 権	③ 301,800	未 払 消 費 税 等	③ 30,600
繰 越 商 品	③ 216,800	未 払 法 人 税 等	③ 233,065
建 物	300,000	前 受 地 代	40,000
備 品	35,000	貸 倒 引 当 金	9,054
土 地	500,000	長 期 借 入 金	200,000
投 資 不 動 産	600,000	退 職 給 付 引 当 金	③ 3,546
そ の 他 有 価 証 券	13,800	建 物 減 価 償 却 累 計 額	130,000
		備 品 減 価 償 却 累 計 額	③ 16,250
		資 本 金	1,000,000
		資 本 準 備 金	100,000
		利 益 準 備 金	③ 32,300
		繰 越 利 益 剰 余 金	③ 849,300
		そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	③ 1,800
	2,835,510		2,835,510

○印は予想配点

第223回 上級 財務会計 ①

問題 1

	正誤	理 由	
1.	×	未収収益は、一定の契約に従い、継続して役務の提供を行う場合、既に提供した役務に対していまだその対価の支払を受けていないものをいう。	⑤
2.	×	破産更生債権等については、債権額から担保の処分見込額及び保証による回収見込額を減額し、その残額をすべて貸倒見積高とする。	⑤
3.	○		⑤
4.	○		⑤
5.	×	株式交付費は、原則として、支出時に費用として処理する。	⑤
6.	×	時の経過による資産除去債務の調整額は、期首の負債の帳簿価額に当初負債計上時の割引率を乗じて算定する。	⑤
7.	×	株主資本は、資本金、資本剰余金および利益剰余金に区分する。	⑤
8.	○		⑤
9.	○		⑤
10.	○		⑤

○印は予想配点

第223回 上級 財務会計 ②

問題2

問1

棚卸資産の場合、通常、販売によってのみ投下資金の回収を図るため、評価時点における資金回収額を示す正味売却価額が取得原価と比較される時価として用いられる。	⑩
--	---

問2

①	製造業における原材料等のように再調達原価の方が把握しやすく、正味売却価額が当該再調達原価に歩調を合わせて動く想定される場合には、正味売却価額に代えて再調達原価によることができる。	⑦
②	継続して適用することが条件となる。	③

問3

(1)	トレーディング目的とは、当初から加工や販売の努力を行うことなく単に市場価格の変動により利益を得ることを目的とするものである。	⑦
(2)	売買目的有価証券	③

問題3

問1

年金資産は退職給付の支払のためのみに使用されることが制度的に担保されていることなどから、これを収益獲得のために保有する一般の資産と同様に企業の貸借対照表に計上することには問題があり、かえって、財務諸表の利用者に誤解を与えるおそれがあると考えられるためである。	⑩
---	---

問2

個別財務諸表では、未認識数理計算上の差異および未認識過去勤務費用について貸借対照表に計上せず、これに対応する部分を除いた積立状況を示す額を負債（又は資産）として計上するが、その場合、退職給付制度に係る積立状況について財務諸表利用者の理解を妨げるおそれがあるため、連結財務諸表では、積立状況を示す額をそのまま負債（又は資産）として計上することとしている。	⑩
--	---

○印は予想配点